

医療の質の担保から業務効率の向上まで、訪問診療に役立つアイデア大集合!!

CLINIC BAMBOO

今日と明日の開業医をサポートする
——最新クリニック総合情報誌

ばんぱう

8 AUG.2017
VOL.437

ISSN 1342-8662



訪問診療の アイデア 30

【特集】在宅医療の効率性を150%上げる!!



岡本和久
医療法人
社団桐和会
理事長



横山小名美
つつじヶ丘公園
西クリニック
副院長



西村知香
くるみクリニック
院長



垂水隆幸
レバレジーズ株式会社
取締役



門間文彦
いしが在宅ケア
クリニック
医師



青木忠祐
株式会社メディカル
スタイルパートナーズ
代表取締役



二ノ坂保喜
にのさかクリニック
院長

在宅医療の質と効率性

医師のQOLを高めるには クラウド型電子カルテが必須だ

年間看取り件数300と、国内トップクラスの実績を誇る医療法人SIRIUSいしが在宅ケアクリニック。2016年12月にはセコム医療システム株式会社のクラウド型電子カルテシステム「セコムOWEL」を導入した。在宅医療の最先端を行く同院が、なぜセコムOWELにこだわったのか。石賀丈士理事長と門間文彦医師にその狙いや成果を聞いた。

Topics

クラウド型
電子カルテシステム

セコムOWEL

In
いしが在宅ケア
クリニック



門間文彦医師

石賀丈士理事長

困難事例を積極的に引き受け 年間看取り300件を実現

「緩和ケアと在宅看取りに特化した日本一の診療所をつくる」と、2009年に石賀丈士理事長が開設した医療法人SIRIUSいしが在宅ケアクリニック。現在は常勤8人、非常勤1人の医師9人体制のグループ診療によって、年間300人もの在宅看取りを行っている。特筆すべきは、がんや難病、介護難民などの在宅療養が難しい患者に特化していることだ。

この目的について、石賀理事長は「救急医療では1次から3次まで、医療機関が役割を分担することで効率性と質を担保しています。同様に在宅医療でも、慢性疾患をはじめ比較的軽い症例や施設在宅などと、重症度の高いがんや神経難病などの困難事例で機能を分担すべきです。医師会やかかりつけ医の先生方には前者をご担当いただき、複数医師がいる当院が後者を引き受ける。地域の在宅看取りを推進していくには、このような機能分担を推進していく必要があると考えています」と説明する。開業医の大半は常勤医師1人で

あるため、がんや難病の患者を在宅で診るのは厳しい。重症度の高い患者を同院が引き受けるのは、地域のかかりつけ医にとってもメリットであり、在宅医療におけるスムーズな連携体制の構築に成功した。その結果、三重県四日市市の在宅看取り率は全国屈指の約30%にまで上昇。「四日市モデル」として、厚生労働省をはじめ全国の医療関係者から注目される事例となっている。

地域連携を重視する姿勢は、その事業展開にも表れている。同院では医師を含めて総勢39人ものスタッフを抱えているが、訪問看護ステーションや介護事業所は開設していない。石賀理事長は「地域の訪問看護師や介護職の仕事を侵すことになりかねないからです。在宅医療、在宅看取りを地域全体での取り組みにしていくには、ほかの医療機関や介護事業者との連携と役割分担が不可欠です」と強調する。

業務効率を高めるため クラウド型電子カルテを選択

数多くの困難事例を担当し、年間300件の看取りを行うために

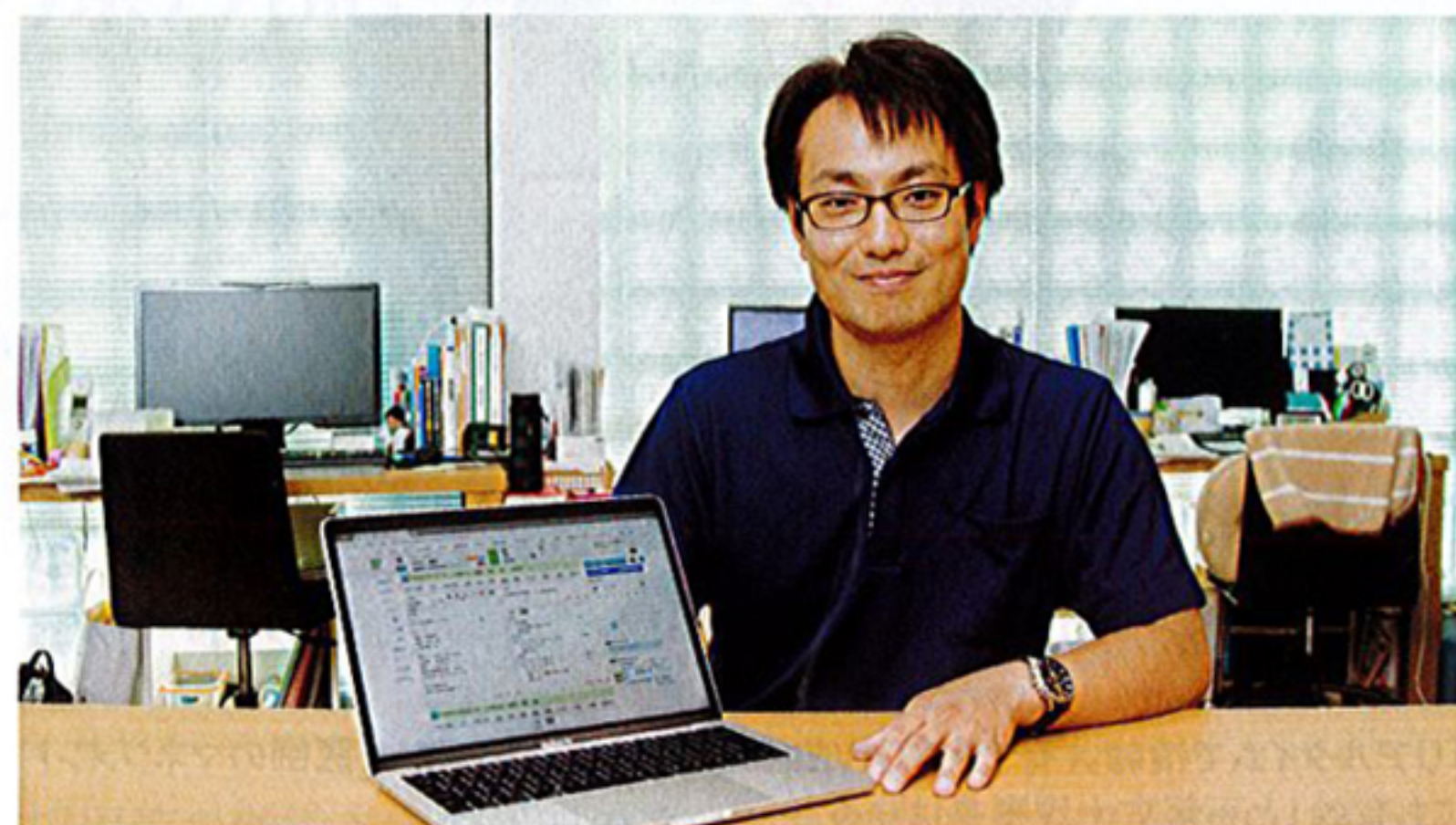


医療法人SIRIUS いしが在宅ケアクリニック

〒512-8048 三重県四日市市山城町770-2
TEL: 059-336-2404

総勢39人のスタッフを擁する、在宅医療特化型の診療所。
がんや難病などの困難事例を積極的に受け入れ、全国でもトップ
クラスの在宅看取り数300を誇る。

DATA



は医療の効率性の向上に加え、現場の医師たちが疲弊しないための仕組みづくりが重要になる。

そこで同院では、平日午後5時終業で土日祝は休み。さらには有給休暇も全消化し、夜間当番は医師1人当たり月7日で回すことができるマネジメントシステムを構築。診療効率と医師のQOLの向上に貢献しているのが、16年12月に導入した、電子カルテシステム「セコムOWEL」だ。

最大の特徴は、インターネット回線を通じてシステムを利用す

る、クラウド型電子カルテであること。インターネットに接続できれば、パソコンやタブレット、スマートフォンなどを使って、いつでもどこでも電子カルテを閲覧・記載できるため、夜間の往診先での電子カルテの確認など、在宅医療の効率性を飛躍的に高めることができる。

「患者さんのほとんどは重症であるため、平日夜間で平均2回、休日6回と、時間外往診が少なくありません。当院では、オンラインの医師は基本的に自宅で待機していますが、クラウド型なら、主治医ではなくても連絡を受けて最新の診療情報を確認し、そのまま患者さん宅に向かうことが可能。以前は院内サーバー型でしたが、訪問診療前と後にデータを移行していないと最新の情報は更新されないし、移行にはそれぞれ約1時間もの時間がかかっていました。この差は非常に大きいと判断し、セコムOWELの導入を決断しました」と、電子カルテ導入を担当した門間文彦医師は語る。

リアルタイムの情報共有でチームマネジメントも円滑に
クラウド型の特性は、在宅医療チームのマネジメントにも活用されている。同院では医師と看護師で1つのチームをつくり、1チーム当たり1日6〜10件の訪問診療を行っているが、担当する患者によつては訪問の進捗状況に差が生じる。セコム



OWEL導入後、各チームが互いの進捗状況をリアルタイムで共有できるようになったため、予想以上に時間がかかっているチームのフォローにはほかのチームが入るといったチームマネジメントも実践できるようになったという。

「進捗が遅れているチームの状況を簡単に確認できるので、余裕があればサポートの連絡を入れていきます。往診依頼も基本的には主治医が対応しますが、迅速な対応が必要な場合、一番早く到着できるチームを派遣することも可能で



「リアルタイムで情報共有できるOWELは診療効率はもちろん、医師のマネジメントにも有効」と石賀丈士理事長は語る

す。昼休憩時には他チームの動向を確認し、必要に応じて連絡を取り合いながら全員が午後5時までには診療所に戻るよう努力しています」(門間医師)

クラウド型電子カルテによって各医療チームの動きをリアルタイムで確認できるのは、経営者にとっても利点は大きいと、石賀理事長は言う。

「今までは午前9時に在宅医療チームが出ていくと、午後5時に戻ってくるまで現場でどのような医療が行われているのか、把握

できませんでした。自分が外出してしまうと報告を受けることもできません。クラウド型になって、こうした課題も解消。たとえば、講演などで外出しているときでも、スマホで若い先生の処方を確認できるので、場合によってはアドバイスすることもあります」

「予想以上」と絶賛する webFAX送信機能

セコムOWELを導入してから約半年。実際に使用したなかで、石賀理事長と門間医師が「予想以上に使い勝手がいい」と口をそろえるのが、webFAX送信機能だ(別途契約が必要)。これは送信する内容を、画面操作で直接FAX送信できる機能で、同院では調剤薬局への処方せんや、病院への紹介状の送信に活用している。

「webFAXを利用すれば簡単に薬局にFAXを送ることができるので、薬局側も患者さんが来る前に薬の準備ができます。患者さんが薬局に薬を取りに行く場合でも、待たされることが少なくなりました。独居高齢者や老老世帯が多いこともあり、『負担が少なくなった』と喜んでもらっています。

また、急な入院依頼など、診療所に戻ってから病院の地域連携室に紹介状をFAXしていましたが、今は往診先からも可能。手間は大幅に減りました」と石賀理事長は話す。

続けて門間医師は「調剤薬局のなかには、webFAXの内容を即座に確認し、症状に合わせてほかの薬を提案してくれることもあります。つまり常勤の薬剤師がいるのと同じ状況をつくり出せるということ。効率性はもちろん、医療の質の向上にもつながっていると思います」と、その効果について語る。

また、門間医師はセコムOWEL導入によって「医師の働き方が変わる可能性がある」と次のように強調する。

「クラウド型でネットにつながっていれば使えるため、たとえば、帰宅して子どもが宿題をしている隣で、自分はカルテや文書を作成することもできます。こういう時代ですから、医師を含めた診療所全体の働き方改革は重要であり、スタッフのQOLを高めるという意味でもセコムOWELは大きな可能性を秘めていると思います」

在宅診療の医療機関様からご好評の声、続々！

クラウドが
あらゆる場所を
診察室に変える



【特典付】
セミナー
開催中！

【無料】
お試し
受付中！



クラウド型電子カルテ

セコム OWEL

いつでも
どこでも

PCでも
モバイルでも

らくらく
導入

HOSPITAL

CLINIC